

令和元年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 最終)

中学校区 校番 15 学校名 吉浦中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>生徒が主体的に学習する授業づくりについて工夫改善を進め、学力を向上させる。</p>	<p>学力の向上を図る。</p>	<p>○第2学年は標準学力調査の国語、数学、英語において、数学、英語が全国平均を下回った。第1学年は標準学力調査の国語、数学、英語において3教科とも全国平均を下回っていた。生徒の実態から勘案すれば努力が認められるが、全学年とも下回っている教科については、学力を向上させることが課題であると考えます。</p>	<p>○課題がある領域、問題について、課題分析を丁寧に行い、改善ポイントを明確にして、計画的継続的に改善ポイントを取り入れた授業を行う。また生徒に対して、授業外(長期休業期間や試験期間等)での個別指導を行うなどの指導の工夫をし、確実な定着を図っていく。</p>
豊かな学力		<p>自ら考え表現する力を向上させる。</p>	<p>○アンケートにおいて、「自分の考えを表現しようとする生徒の割合」が、84.4%、「学んだことを活用使用とする生徒の割合」が、91.7%と2項目とも上半期を上回っている。各教員の指導方法の工夫・改善や「考える授業づくり」等が意識されたことが、功を奏した結果と考える。</p>	<p>○各教員が行っている「考える授業づくり」の実践の効果的な取組について全教職員のものとなるように、情報の共有化を図る。</p>
**	<p>道徳教育を充実させ、道徳的実践力を高める。</p>	<p>自尊感情、自己肯定感を向上させる。</p>	<p>○アンケートにおいて、「自分には良いところがあると思う生徒の割合」が、77.9%と高い数値であるが、目標値及び上半期をも下回っている。言葉がけ等を取り組んでいるが自尊感情、自己肯定感を向上させることに至っていない。</p>	<p>○生徒の様子をしっかり把握し、生徒への直接の感謝・評価の言葉かけ、学校、学年、学級の各通信とHPを活用した感謝・評価の言葉かけ等を積極的に進めていく。また、hyper-QUでの要支援生徒への丁寧な指導を行っていく。</p>
豊かな心		<p>協働できる力を向上させる。</p>	<p>○アンケートにおいて、「周りの人と協力しながら自分の役割を学習や活動で果たしている生徒の割合」が、95.4%と目標値を下半期も15ポイント近く上回った。計画的な特別活動や教育相談を実施した成果であると考えます。</p>	<p>○不登校生徒・長欠生徒は依然高い数値を出しており、今後はhyper-QUを分析し、情報を教職員全体で共有すると共に、効果的な学級集団づくりを行っていく。</p>
		<p>地域のよさに気づかせ、郷土愛を育む。</p>	<p>○アンケートにおいて、「自分の郷土のよさに気づき、その郷土に貢献したいと考える生徒の割合」が、81.7%と目標値を上回った。総合的な学習の時間を中心に昨年度、指定を受けた道徳教育を絡めながら引き続き取り組んだ成果であると考えます。</p>	<p>○カリキュラムマップを基に、特に総合的な学習の時間を中心に、道徳科、教科等の教育活動において、横断的かつ系統的に郷土愛の育成の取組を引き続き行っていく。また、実施後の振り返りを大切に、来年度に向けての改善を図っていく。</p>
★	<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整える。</p>	<p>生徒と向き合う時間を確保する。</p>	<p>○アンケートにおいて、「児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」が、81.3%と上半期に比して2名のものが多忙感を感じているものの、目標値を12ポイント以上と高い数値となった。業務の精選と共に教職員の働き方改革に対する意識が高まった成果と考えられる。</p>	<p>○引き続き、会議時間の短縮、学校行事等の精選や実施内容・方法等で、「何ができるか」を教職員全体で考え、無理のない形での更なる改善を図っていく。</p>
働き方改革		<p>長時間勤務の削減を図る。</p>	<p>○「時間外勤務が月80時間を超える教職員の月平均人数」は、下半期で0名と目標値を上回った。各自が業務の改善を図り見通しをもった取組をしたことが要因と考えられる。</p>	<p>○令和2年度からは、上限が月45時間、年360時間となるため、段取り等タイムスケジュール感をもっての勤務ができるよう、更なる声かけをし、個々の意識改革を図っていく。</p>